

我が町をみつめて「黒木町」

飯塚支部 楠 拓也

私が今の職場に配属となり、早くも2年の月日が経とうとしています。配属当時、先輩から「こういった文章を書くのはお前の役目だな」、と言われ覚悟はしていたのですが、ついにこの日がやってきてしまいました。悩む間にも提出期限は迫り、私がだらけていても時間は規則正しく進むため、・・・とうとう締め切り日前日。さてどうしようかと一息、覚悟を決め、先達の教えに倣い「スラスラと書けそうな」テーマを選び一気に筆（キー？）を進めています。こうしていると宿題をほっぽりだし遊びまくって気付いたら夏休み最後の日、になっていた学生時代が頭をよぎります・・・。

その夏休みを過ごした地、黒木町はつい最近矢部村・星野村・立花町とともに八女市と合併し生まれ変わりました（消滅した、と書かれている文献もありました・・・）。市町村単位での紹介であるならば八女市の紹介を、となるのですが、自分の育った故郷はあくまで黒木町であり、八女市では無いためこの題名で紹介文を書くことにしました。

私を長年育ててくれた黒木町は福岡県の南部、熊本県との県境に位置しています。町の中央を清流・矢部川が国道442号線とともに貫流しており、その上流、隣村である矢部村との境には福岡県が最初に施工・管理を行った県営ダムである日向神ダム（県営ダムとしては現在最も規模の大きいダムでもあります！）が町を見下ろし、135,49km²という広汎な面積（東京ドーム3個分）の7割を占める山林は秋に見事な紅葉を見せてくれます。

どうでしょう、ピン！と来た方はおられるでしょうか？土木に携わったことのある方には矢部川・日向神ダムのキーワードが大きいかもしれません。

もうちょっと範囲を広げるために誰もが知っているであろう有名なキーワードを挙げてみます。まず第一に、九州で最も有名かつ国指定の天然記念物である黒木大藤。これは絶対にはずせませんね。藤の花が一番見頃になる4月下旬からゴールデンウィークにかけて行われる大藤まつりには全国から約15万人の観光客が訪れ、中には遠路はるばる札幌から見に来られる方もいるほどです。枝から垂れる無数の花房が織成す紫色のカーテンは見事の一言に尽き、夜にライトアップされたその姿は一見の価値あります。国道442号線からも見ることができますので（できる、というより藤の下を国道が走ってます）近くに来られた際には是非立ち寄ってみてください。私はどの事務所に飛ばされようとも見るつもりです。これからも毎年。絶対に。

次に、高級茶として名高い八女茶を挙げさせてもらいます（発祥の地は黒木町なんですよ！）この八女茶、玉露の生産量は日本で実にその45%を占め、全国茶品評会という大会では平成17～20年の4年間ものあいだ首位を守り続け、19年度に至っては1位から26位までを独占すると言う快挙をなしえたほどです。八女茶ということで八女市が有名です

が、黒木にも盛大な茶園があり、切り開かれた山肌に茶株（お茶の木）が広がっています。例にもれず私の実家も作っており、・・・毎年5月～お茶の収穫時には地獄のような日々がまっています。それというもこのお茶、いや八女茶に限った話ではありませんが、華やかな栄光の裏で収穫する際に大変な労力と根気を費やす必要があります・・・。手摘み、といわれる方法でお茶を収穫するのですが、50m×5列にわたって生い茂る茶株から新芽だけを選び手でプチプチもぎ取っていく、そんな作業をお天道様が上がって沈むまで延々と茶株が丸坊主になるまで続けなければならないのです。大規模な茶園になるとそれこそ何時終わるか分かりません。機械で摘む事もできるのですが、その場合おいしいお茶になる新芽以外に古い葉も混ざってしまい、質が悪くなるのです。いいお茶を作るには手間暇を惜しんではならない、ということでしょうね・・・

つづいて紹介しますは俳優としてご活躍中の黒木瞳さん。彼女の芸名の由来はこの黒木町であり、黒木町は彼女の出身地なんです。上記二つの藤、お茶よりも有名かも知れませんが、3番目に来てしまった理由というのも・・・自分がつい最近まで知らなかったからです。故に「出身地」であること以外知りません。何も。この件に至っては私だけではなく家族一同誰も知識なしのため、私の乱筆乱文にお付き合いしてくださっている皆様、機会があったらなにとぞご教示ください。他にも八女茶発祥の地そのものである霊岩寺、同お寺内にある日本三大奇岩の一角である珍宝岩等並べてみると結構有名な所ってあるなあ、と自分でもびっくりしています。

さて、みなさん黒木町について多少なりとも興味をもっていただけただけでしょうか？私の言葉だけでは伝わらないことがたくさんあるかと思いますので、是非一度緑あふれるこの町に足をお運びください。

※飯塚県土整備事務所 河川砂防課